

大地は、すっかり雪に埋もれ、毎日、白い世界に子どもたちの色とりどりのウェアの姿が映えて、とても美しい光景が広がっています。特に、午前中の志賀高原からの太陽の光で、大地のスロープが輝き、その中で子どもたちが遊んでいる姿を見るにつけ、とても幸せな気持ちになります。

毎日のリズムが、子どもたちの生活に必要なように、外では 雪遊び そり遊び クロカン、室内では にじみ絵 リリアン 刺繍 あやとり 料理 などの冬ならではの暮らしが、リズムよく1週間続く毎日の中で、今年は、特に クロカンを楽しみにしている子供たち。秋の伐採した隣地が、とてもアプローチし易く、また、適度な傾斜があり、そして開放的で眺めが良いので、じっくりと安心して楽しめるのでしょうか。特に、年少児達は、ふわふわの雪の中で、何度も転びながらもがきながら、雪を楽しんでいるうちに、年中年長児に速度こそかないませんが、時間をかけて、同じ距離は散歩できるぐらいになり、びっくりです。

そり遊びも、雑木林を駆け抜けるコースは、まさに絵本の世界そのまま、大地の冬の美しさ、魅力を感じることができる、1番の遊びです。

2月の声を聴くと、いよいよ春が近づいてきます。夕方5時を過ぎても明るく、朝も6時ぐらいには明るくなってきています。が、厳しい寒さは続きます。このアンバランスな季節が、2月の特徴です。この2月、雪遊びと薪ストーブの暖かさの中での室内遊びを十分リズムよく楽しみながら、春の訪れを感じて過ごしていきたいと思います。

子どもたちの顔も雪焼けで黒さも進むのも、この季節です。



【すてきな3人組】

旧ののな文庫跡にあるたき火コーナー。先日の大雪で、子どもたちがスコップで掘り起こしながらいろいろ話していた。

「ののな文庫って、火事になったんだよね」「違うよ、3人組が持って行ったんだよ」「おもちゃや冷蔵庫もあったよね、それ燃えちゃったんだ」「違うよ、津波で大変だった人の所へ持って行ったんだよ」「そうなんだ」「でも、本も少しづつ、読み終わったので返してくれているんだよ」「じゃ、おもちゃや冷蔵庫も帰ってくるね」「そうそう」

すっかり雪で覆われている文庫跡は、初めて訪れる人にとっては、そのままの姿であり、10年に渡り、建築増築してきた私たちにとっては、幻のような光景です。周囲の樹木は、雪が降ると、太い枝が折れて下に落ちています。この樹木は、樹皮が黒くなっており、昨年春は新芽が出なく、葉が繁りませんでした。この春、芽が出なかったら、葬る予定ですが、この樹木達のみが、当時の姿の1部になっています。

昨年の元旦の朝からの火災。人生初めての大きな出来事でした。今年の元旦は、この場所で初日の出を臨み、黙祷し、10年の重み、そして、火災後再開館までの2ヵ月間の過程をかみしめました。建物の物理的焼失の失望感よりも、10年間の積み重ねてきた思い出を失った悲しさと、再開館までの2ヵ月間 たくさんの人達が応援し、励まして下さった嬉しさ、そして以前と変わらずに文庫を訪れてくれる人達の姿、並んでいる本棚の本の光景、それらの新しいこの1年の流れに 大きな喜びを感じた元旦でした。大地の入り口にあるだけに、毎日ここを通る度に、もちろんその無念さ、悔しさ等ではありますが、それ以上に 子どもたちの無邪気な天真爛漫な姿や励まして下さった人達の思いが感謝としてよみがえり、エネルギーの源となり、私にとってはパワースポットになっています。

燃え上がる文庫の火を見ながら、家族6人全員で肩を抱えながら「絶対明日から再建するぞ」と誓った事。「お父さん一人でやらなくてもいい、私達が一緒にやる」と言った子どもたち。その横で、年老いた母が「この年になり、こんな火事に会うとは」とすすり泣いていたこと。「大丈夫、俺がすぐに再建するから」と言ったこと。警察消防の事情聴取、消防団の慰労などを終えた夜9時ごろにも、煙がくすぶっている中で、家族で水をかけたこと。「お父さんお母さんはもう寝て、明日のことは私達4人が準備するから」と言って、明日手伝いに来てくれる人達のご飯の準備をしてくれた4人の子どもたちの姿。翌朝の大雪の中、ドロドロになりながら1日にして片付けるという目標に向かって、明るく協力してくれた人たち。翌日から絵本を持ってきてくれた人たち。お見舞いに来て下さった方々。絵本や本を寄贈して下さった方々。連日連夜本の整理をしてくれたスタッフおよび保護者の方々。今年の元旦の朝は、それらのことが走馬灯のようによみがえってきました。そして、ここを通る度に、多くの方々思いと励ましが聞こえてきます。

雪が溶けると、いよいよ子供たちとの約束通り、素敵な3人組が本格的に動き始めます。今度は大きな本格的な建物のため、農地転用 農振除外 宅地転用等の煩雑な手続きも秋から初冬にかけて、何とか自力でこなし、一つ一つクリアし、設計図もイメージしながら作り上げ、暇があればモデルハウスを見にいき、一步一步冬できることをクリアしています。先日は、更に景観良くするために、電線 電柱の移動もクリアでき、またまた一歩動き出すことができました。

今回は、寂しいことではありますが、設計施工は信頼できる業者をお願いし、私はほとんど手を出すことはできなく、子どもたちと一緒に完成過程を見守っていただけとなりそうですが、業者の方も、私たちの気持ちや姿勢を知っているだけに、逆に、子どもたちとこんな事をしてみたらどうですかと、相談されています。

冒頭のように、私にエネルギーを与えてくれるのは、何と言っても無邪気な天真爛漫な子どもたちです。子どもたちのファンタジックな世界、お話や絵本の世界、そこで真剣に生きる子ども達、その世界が好きで幼児教育の世界を選んだ私だけに、すてきな3人組としてずっとこどもたちといつまでも一緒に暮らしてくることが、自分のライフワークだと思っています。

大人と子供の境界 分かれ目って、何でしょう。18歳とか20歳とかそんな物理的なものではなく、世界をメルヘンとファンタジックに考えられるかどうか、「金」「将来性」「世間体」だけで選択したり、「どうせ無理」「時間がない」「金がない」と夢をあきらめたりする境界が、大人と子供のそれかもしれません。

「過去を悔やまず 明日を愁えず 現在を生きる」これが子どもたちの姿です。だから毎日元気いっぱい、今に生きる子ども達の本来の姿です。もちろん、大人は、過去を反省し、教訓を生かし、そして明日への計画 戦略を練る 将来を展望することは必要です。しかし、あまりに用意周到、準備することが多くなると、備えのために生きる人生となり、今 現在を生きる楽しむエネルギーが衰弱する怖れがあります。

今年は 結婚30周年 大地開園20周年 文庫開館10周年 そして、新建物建築完成の記念すべき年です。

大人として 「過去を悔やまず 明日を愁えず 現在を生きる」 を モットーに進んでいきたいと思っています。

